

科名 血液内科
 対象疾患名 再発又は難治のCD22陽性の急性リンパ性白血病
 プロトコール名 ベスポンサ 2サイクル目以降の非寛解症例(1コース28日)

Rp	形態	ルート	薬品名	投与量	時刻・コメント	1	...	8	...	15	...	28
1	点滴	メイン	生理食塩液	250mL	ルートキープ 残破棄可	↓		↓		↓		
2	点滴	側管	ベスポンサ	0.8mg/m ²	1時間かけて投与 投与前1時間～30分前に前投薬 を内服	↓						
			注射用水	4mL	調製・投与時要遮光							
			生理食塩液	50mL	溶解後8時間以内に投与終了							
3	点滴	側管	ベスポンサ	0.5mg/m ²	1時間かけて投与 投与前1時間～30分前に前投薬 を内服			↓		↓		
			注射用水	4mL	調製・投与時要遮光							
			生理食塩液	50mL	溶解後8時間以内に投与終了							

★1クール=28日

～MEMO～

催吐リスク2(10%以上30%未満)

・infusion reaction 予防のため、ベスポンサ投与前1時間～30分前に前処置薬として、アセトアミノフェン500mg /回とポララミン(2)1T/回を内服すること。

・VOD/SOS 予防のため ウルソデオキシコール酸錠の投与を検討。

・造血幹細胞移植の施行を予定している場合：

投与サイクル数の増加に応じてHSCT施行後のVOD/SOSの発現リスクが高まるおそれがあるので、本剤の効果が得られる最小限のサイクル数とすること。治療上やむを得ないと判断される場合を除き、3サイクル終了までに投与を中止すること。

・造血幹細胞移植の施行を予定していない場合：

6サイクルまで投与を繰り返すことができる。ただし、3サイクル終了までに本剤の効果が得られない場合には、投与を中止すること

・2サイクル目以降寛解が得られた場合は、血内-184(3)へ移行